

第2回総合振興計画外部評価委員会 議事概要

日時：9月25日（木）午後7時～@和泊町役場結いホール

○第1回の外部評価委員会後、各委員が評価シートを記入・事務局に提出し、とりまとめた評価結果を事務局が説明。総合振興計画の各プロジェクトの今後の方向性（**拡充、現状維持、縮小、見直し**）について、今後、外部評価委員会から町長への提言としてまとめるべく、今回は下記の4プロジェクトについて意見交換を行った。当日出た意見は下記のとおり。

① むうるほうらしゃプロジェクト

- ・自転車が増えるにあたり、危険運転が増えているように感じる。年1～2回でもかまわないでの、運転指導の勉強会をするのはどうか。
- ・交通安全の観点では、今後自転車レーンが整備される旨の周知も必要かと思う。また、交通安全については、自転車の利用者である中高生だけでなく、外国人にどう伝えるかにも留意する必要があると感じる。農家に努める外国人が飲酒運転は日本ではマナー違反だと伝えても、隠れて乗ってしまう場合もあると思うので、その点が心配。
- ・製糖時期と重なると、運搬車両との事故の可能性もあるので、交通量の多い道を事前に周知するなどの対策も良いかと思う。
- ・本事業は健康×観光という面もコンセプト設定されている。ハード面整備を行う土木課とソフト面の企画か・保健福祉課との連携も重要。
- ・観光面でサイクリングツアーも実施していると思うが、観光で来島された方には、ヤマハから借りている電動自転車の需要が高い。
- ・また、観光協会会員の事業者からは、電動自転車が港や空港など各所にあり、それをアプリですぐ借りられるような利用しやすい仕組みがあると良いという声がある。船が和泊ではなく伊延に着いた際や、観光客も使うかもしれない。自治体単位で動かないと難しいかもしれないが。
- ・先日、石垣島の黒島という離島に行った際、電動自転車を借りたが疲労度もなく、便利だった。
- ・先日役場職員がプライベートでも電動自転車で島1周をしていた。
- ・私も話を聞いていて、会員登録しておいて、すぐ乗れるシェアサイクルがあれば便利だと思う。私が子ども議会にいた時も提案させていただいた。
- ・少しずれるが、私の中学生の子どもたちが島1周自転車レースをした。まちゅんどプロジェクトとのコラボをやっても面白いかと思った。普通に景色がきれいで楽しかったと言っていた。
- ・大人もそういう会が定期的にあると参加したいなと思う。
- ・やっぱり行政ができる部分は限られている。費用が掛かる面、例えばマップ面の整備とか、シェアサイクルの導入費用とかは行政にやってもらって、その運用面は島内の自転車協会や観光協会、たくさんあるNPO法人と連携していくなど、全部行政がやろうとせず、役割分担してやった方が良いのではと思う。中高生など、自転車によく乗っている方々と連携した方が良いのかなと思った。
- ・本事業は健康・観光に関連するコンセプトだったが、加えて環境的な付加価値もあると思う。他の分野とも連携できるのであれば、拡充でも良いかと思う。
- ・今後、自分自身が車の免許返納をした後の生活を考えると、Aコーポ等主要な施設につながる道はとても重要なものになるので、そういう施設への道を、自転車やシニアカーが通りやすいよう、自転車や車道を分けるなど、整備してもらえるとありがたいなと思った。
- ・シェアサイクルも二輪だけでなく、高齢者が乗れるような三輪を用意するなどの配慮も必要かと思った。

<評価>

委員長が委員に挙手制で評価を伺ったところ、現状維持が多数であった。

事務局より、交通安全教室等自転車の安全面の事業や、他団体・課との連携を図って、ソフト・ハード両面で進めていくのはどうか、という意見が出ていたため、それを外部委員会の提言としても良いか提案があった。

委員から、現状維持だと今のまま進むというイメージがあるが、この提言内容であれば、例えば役場内でも企画課、町民支援課等の連携が必要なことから、拡充とした方が良いのではと意見があった。討議の結果、拡充に決定。

②みじらしやエリアプロジェクト

- ・前回出た、字内で集まる場所があれば良いという意見に関連して、みんなで安心できて、自活できる施設があれば素敵だと思う。
- ・このプロジェクトに限らず、さっき役場内連携という話もあったが、役場がするという作りではなくて、町民の役割分担でやっていけたら良いが、その連携が難しいと思う。また、役場がお金を作った施設、というのも集まりにくい気もする。
- ・知名の上平川に字が運営している物件があったと思う。それは移住者向けだが、字の行事に参加したら家賃が下がってくる仕組みだったと思う。字で運営するシェアハウス。
- ・お年寄り向けということを考えると、最近老人ホームと保育園を一緒にした施設もあると聞く。今あるものをいきなり一緒にするというのは制度的に無理だと思うが、とりあえず民間でそういう場所を作るというのは不可能ではないかなと思ったりする。
- ・町も予算を付けるのは難しいかもしれないで、字内でできれば理想的かと思った。
- ・話にあったような場所を作る際、「自分の生活に必要なものを自分で選択できる」ということが一つの鍵になると思う。話をするための場所であったり、買い物も楽しくできたりする場所があれば。（高齢になって）誰かの世話になるというのは都会の発想だと感じる。長寿だった私の祖父も、ヘルパーさんに手伝ってもらう部分がありつつ、庭いじりだけは自分でやっていたりしていた。
- ・総合振興計画は高齢者には限らず、ひとり親であったり、障がいを持っている方など幅広い人を想定している。そういう方々が助け合いながらお互いに楽しんで生活できるような場所になれば。都会では生活しづらい人が、みんなで助け合って暮らすのが好きな方どうぞ、という紹介もできるかもしれない。
- ・離島留学のように、島の暮らしを体験したいという声が時々観光協会にも入ってくる。民泊のようなモデル集落的な場所で、家の人が子どもたちを受け入れるみたいなことができればありがたい。
- ・自分も島外から来た方が、1週間島の農家のボランティアとして営農して、その代わり島の文化などを色々教えてもらうような交流事業に取り組んでいる。ボランティアでもそういうものに協力してくれる方はけっこういらっしゃる。
- ・アイデアとして、島外からDIYやりたい方に来てもらった後、農家を手伝う農業バイトもしてもらうようなことも考えている。うまく活用していかねば。
- ・官民協働が必要とか、モデルハウスとか、高齢者以外への取組など話が出たが、他自治体や外国でも良いので、モデルケースや過去事例があればどんどん共有してほしい。ハードルが高くても目指す先がイメージできれば実現しやすいのではと思う。
- ・以前、石川県輪島市の「輪島 KABULET」を視察したことがある。今話していたような街づくりを行っていたが、空き家の活用は整備費用が高いという話があった。事業運営としては非常に厳しいが、高齢者が集まっていると、一緒に体操をやったり、食事をしたり、温泉に入ったり、非常に楽しく暮らしてると聞いている。保健福祉課とも協議しながら、町民の方々とも協力していきたい。
- ・スマールスタートの観点で、各計画を単独字又は複数字で担当として決め、主体性を持ってやっていってもらうのはありじゃないかと思った。字で主体的に動いてくれる方がいれば進んでいくのでは。

<評価>

事前意見では現状維持と見直しの人数が半々であった。字同士で組むであるとか、団体同士で組むのは良いアイデアかと思った。予算をかけずに小さな一歩から進めてみるということで、見直しとしてはどうかと話があり、反対もなく決定。

③まちゅんどプロジェクト

- ・少し本筋からずれるが、学生向けイベントの充実だけでなく、日常の充実に目を向けても良いかと思った。中高生向けに夜の勉強場所として自分の施設を提供していた時期もあったが、継続は難しかった。学校が終わった後の勉強場所など、集まれる居場所があれば良いなと思った。
- ・何度かイベントの取材をしたが、イベントの楽しそうな雰囲気が伝わるような後日レポートを作ってはどうかと思った。次告知があれば参加するという動きにつながるかもしれない。
- ・（1：20：35～鹿銀？コメント聞こえない）
- ・包括支援センターの運営には資格が必要だが、島では資格保有者を必要としている旨を島外の若者などに働きかけることで、島でもちゃんと仕事があり生活ができることが伝わっても良いのでは。島内でデザイナーをしながら、全国で活躍している方もいる。
- ・特定地域づくり事業では、島で活躍できるよう資格取得支援をしている。
- ・特に島で不足しているのは介護に携わる方。出産とともに帰島された島の出身の方がいるが、先日介護関係の国家資格も取得された。
- ・町で持つておいてほしい資格という点では、車関係。オートマ限定免許を持つ新卒の方に、マニュアル免許も取得いただき、来月から農家に行ってもらえるようになった例もある。
- ・社協では介護の国家資格試験を受験する上で必須となる科目の実務者研修をしている。
- ・U ターン者が帰島する理由はいろいろあると思う。島が良いと思ったとか、なんとなく帰ってきたとか、親が心配だからとか、島でゆったりしたいからとか。自分の周りには 40 代手前になつて戻ってきてたい人もいる。一方で島では仕事がないから都会で生活しなさいという親もいたりするが、役場からは戻ってくるようイベントをしてしたりなど、町内でも矛盾があると思う。高校生の親と子どもを集めて、職業講話をするイベントをしても良いかと思った。
- ・自分は島の農家をやっており、農業は儲けられないと聞いていた。だが近くで見ていたらやっぱり農業にも興味が湧いてくるし、自分が子どもだったころには今のようなイベントはなかつたので、今は恵まれていると思うので、保護者も巻き込んでいってもらうと良いのかなと思った。実際自分は農業してた同年代では良い額を稼いでいる方ではないかと思う。自分が長男だったので、一般の中高生に響くかはわからないが、エラブでも内地に負けないくらい額を挙げられるとか、お金の話などそういうコアな面を伝えて、それが響く人たちを跡継ぎにすると戻る人も増えるのではと思った。
- ・高校に上がる際に島外に出てしまうのを減らせないかと思っている。高校生が減ってしまうと、地域の盛り上がりも減ってしまう気がする。
- ・教員と話していても、沖高がなくなると経済損失が出るのではという話が出る。
- ・先日参加した講話では、島に助産師がいないので、島に戻ってきてやりたいと言っている生徒がいて、良いなと思った。子ども側も島の現状を見て、自分にできることがないか考えている印象があるので、そ p の意識をもっと広めていけたら。
- ・自分が鹿児島市内の高校に行って、関東の大学を卒業してすぐ戻ってきた理由は、夏休みに地元の先輩後輩と遊んだのが楽しくて、島の方が自分らしく生きられることに気づいた。島にいるところいう良いことがあるとか、また帰ってきたくなるようなことを伝えられたら良いのかも。
- ・農家の親が子どもたちにもう帰ってくるなと言っていることがあるが、そういう親側を変えしていくことも必要かもしれない。島にいる大人は島の良いところをわかっているのか？子どもだけにスポットを当てるのではなく、大人が持っている島の仕事の専門的な知識を子どもたちに楽しく伝える大人を育てるような方向性。こういう大人がいるから戻ってこようと思える講座をできたら。昔は当たり前のようにやっていたのがだんだんとなくなってきて、薄まってしまっている。
- ・島にゆかりのある人で、子どもの時に一度来て、それが思い出に残っていて、大学卒業後に島に来たというパターンもある。変な言い方だが、その方がしがらみが少ない場合もある。U ターンより R ターンの方が潜在人口がいるのではと思う。R ターンのリストを作るなどしては。

<評価>

拡充に決定。

④むうるし、ふでいらさープロジェクト

- ・自分も様々な背景の子どもと関わっているが、手の届きづらい部分があり、行政だから知っている情報などを共有できるような考えも進めてもらいたいなと思う。
- ・子育て力の向上が目的にあったが、評価の仕方をもう少し具体的にしても良いのかと思った。例えば、プレパパの料理教室であれば、男性が週2回台所に立つとか。
- ・プレパパ料理教室の後、お父さんたちが料理に目覚めて、作る機会が増えたというのも聞いている。親子教室でもらったカレーのレシピを女の子が家で作った、という話も聞いている。
- ・役場では事後アンケートも取っている。そういうのを町民が見ると盛り上がってくるのかもしれない。
- ・お母さんが何をしてほしいかの聞き取りは重要だろう。
- ・少しずれるが、お母さんが自分のためにする取組として、ヨガを取り入れたりした。お母さんが手伝ってほしい部分をお父さんが手伝うことで時間が空いて、お母さんの自由な時間が作れれば。
- ・お母さんのリフレッシュはすごく重要なとと思うのと、お母さんだけが頑張らなくて良いという部分と、家族で一緒に子育てしようという面を継続して進めていけたら良いなと思う。
- ・年一でしがらみのない島外に出てリフレッシュするお母さんもいる。
- ・この事業に限らないが、プロジェクト名について。島言葉を大事にしたいのは分かるが、第6・7次にかけては、まずはスッと入ってくる言葉に置き換えて、サブタイトルで島言葉を使い、町民にもアピールしていくのはどうか。島ムニ継承と計画の伝わりやすさが衝突している。それは別物としてデザインを組んだ方が良いかと思った。
- ・役場の負担かもしれないが、第6次振興計画の中のイベント日みたいなものを一度立ち上げ、今回水島さんが作った団体リストの方々を加えたアピールの場みたいなものをするはどうか。そこに行けば、誰がどこで何をしているか一気に見えるようになると思う。
- ・横の連携という面では、総合振興計画のプロジェクトとして、年間でこういうイベントを計画している、という情報をまとめてはどうか。類似イベントに相乗りできれば、各イベントもスリム化されるし、参加者を呼び込む媒体やツテも増えていくと思う。現状、元気わどまりクラブとイベント日が被ったりしている。
- ・総合振興計画カレンダーのような形で、このプロジェクトは何月にこれをやります、とかがわかれば。町民が楽しんでいる様子を水島さんにレポートなどの形で伝えてもらうなど。カレンダーにはSDGsマークのような、各プロジェクトのアイコンを付けたりできれば。

<評価>

現状維持で決定。

○事務局より、次回は残り3つのプロジェクトについての議論と、追って調整をする旨連絡し、終了。

(以上)